博士論文（要約）

論文題目　弥生・古墳時代移行期における近江系土器の移動とその背景

氏　名　　山下　優介

目次

はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第１章　研究の目的と方法
第１節　先行研究と問題意識・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
１－1. 東海系要素と近江系要素 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
１－2. ヤマト王権の成立と「原倭国」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
１－3. 小結 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
第２節　本研究の目的、方法および構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

第２章　土器の編年と暦年代
はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第１節　近江地域北部の弥生時代後期から古墳時代前期の土器編年 ・・・・・13
１－1. 本節の目的と方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
１－2. 先行研究と問題意識・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
１－２－1. 近江地域における当該期の土器編年研究・・・・・・・・・・・15
１－２－2. 近江地域の器台形土器・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
１－3. 分析結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
１－３－1. 土器の分類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
１－３－2. 器台の型式学的な変遷・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
１－３－3. 器台の共伴関係からみた変遷・・・・・・・・・・・・・・・・・29
１－３－4. 小結・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
１－4. 諸段階における各器種の消長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
１－４－1. 壺類の消長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
１－４－2. 甕類の消長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
１－４－3. 高杯類の消長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
１－４－4. 鉢類の消長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
１－４－5. 小結・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
１－5. 他地域の編年案との併行関係と土器編年上の画期・・・・・・・・・・45
１－５－1. 湖南地域の土器編年との併行関係・・・・・・・・・・・・・・45
１－５－2. 周辺地域の土器編年との併行関係・・・・・・・・・・・・・・46
１－５－3. 編年上の画期・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
第２節　暦年代の検討 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51
２－1. 弥生時代後期から古墳時代前期の暦年代研究・・・・・・・・・・・・51

２－2. 近江地域における暦年代の検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
２－3. 周辺地域における暦年代の検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
２－３－1. 年輪年代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
２－３－2. 炭素 14 年代測定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56
２－３－3. 酸素同位体比年輪年代測定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61
２－4. 本研究の暦年代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・62
おわりに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63

第３章　近江系土器をめぐる研究史

はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67
第１節　近江型甕と受口状口縁甕 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67
１－1.「近江型甕」の提唱 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67
１－2. 滋賀県内調査による近江型甕への注目・・・・・・・・・・・・・・・・69
１－3. 山城地域における調査・研究の盛行・・・・・・・・・・・・・・・・・70
１－4. 滋賀県内調査にともなう弥生土器の地域色研究への回帰・・・・・・・71
１－5. 小結・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・73
第２節　受口甕とＳ字甕 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・74
２－1. 本節のねらい・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・74
２－2. 受口甕の研究史における三つの画期・・・・・・・・・・・・・・・・・74
２－3. 大参義一 1968 の成果とその意義 ・・・・・・・・・・・・・・・・・75
２－4.「受口状口縁甕」成立前の報告例 ・・・・・・・・・・・・・・・・・77
２－5.「受口状口縁甕」が成立した後の報告例 ・・・・・・・・・・・・・・78
２－6. Ｓ字甕の祖型としての受口甕 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・78
２－7. 小結・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・81
第３節　弥生・古墳時代移行期の「近江系土器」研究とその課題 ・・・・・・81
３－1. 本節のねらい・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・81
３－2.「近江系土器」研究の高揚と二つの関心 ・・・・・・・・・・・・・・82
３－3. 資料のさらなる蓄積と研究の停滞・・・・・・・・・・・・・・・・・84
３－4. 近年の報告事例と近江系土器研究への回帰・・・・・・・・・・・・・85
３－5. 近江系土器研究の現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・87
おわりに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・89

第４章　弥生後期前半の近江系土器とその特色

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・91
第１節　研究の背景・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・91
第２節　目的と方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・92

第３節　対象遺跡の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・92
３－1. 弥生後期前葉の近江地域における土器の様相・・・・・・・・・・・・・92
３－2. 愛知県八王子遺跡出土資料の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・94
３－3. 三重県六大Ｂ遺跡出土資料の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・96
３－4. 大阪府古曽部・芝谷遺跡出土資料の概要・・・・・・・・・・・・・・・98
第４節　近江系土器を含む各土器群の検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・100
４－1. 器種構成の比較 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・100
４－2. 受口甕の諸属性に関する分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・102
４－２－1. 胎土に関する予察 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・103
４－２－2. 口縁部形状・内面調整・文様構成・施文具の分析 ・・・・・・110
第５節　弥生後期前半の近江系土器を含む土器群・・・・・・・・・・・・・・・116
おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・119

第５章　弥生後期後半における受口甕の広がりとその背景

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・121
第１節　本章における検討の方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・121
１－1. 近江地域の甕形土器や集落に関する研究 ・・・・・・・・・・・・・・121
１－2. 対象と時間軸 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・124
第２節　弥生後期後半における甕形土器の採用状況・・・・・・・・・・・・・・125
２－1. 分析の概要と目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・125
２－2. 口縁部形状の分類 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・125
２－3. 各遺跡における甕の採用比率 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・126
２－4. 近江地域の受口甕にみる交流関係 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・128
２－5. 小結 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・133
第３節　近江地域の集落面積比較・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・134
３－1. 分析の目的と方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・134
３－2. 近江地域の集落面積にみられる規模の大小 ・・・・・・・・・・・・・134
第４節　近江地域の独立棟持柱建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・136
４－1. 各集落における独立棟持柱建物のあり方 ・・・・・・・・・・・・・・136
４－2. 独立棟持柱建物の規模 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・140
第５節　弥生後期における近江地域の集落関係・・・・・・・・・・・・・・・・141
おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・144

第６章　弥生・古墳時代移行期における近江系土器の再検討

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・147
第１節　先行研究と本章の方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・147

第２節　弥生後期後半の受口甕の分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・148
２－1. 施文に関する分析　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・148
２－2. 口縁部形状に関する分析　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・149
２－3. 小結　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・152
第３節　弥生後期後半における他地域の受口甕・・・・・・・・・・・・・・・・・153
３－1. 他地域の受口甕類型　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・153
３－2. 他地域における受口甕の採用　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・157
３－3. 周辺地域における近江地域北部の影響　・・・・・・・・・・・・・・・・158
第４節　弥生後期後半の近江系土器・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・159
第５節　関東地方の近江系土器・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・161
５－1. 検討の視点と方法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・161
５－2. 関東地方の受口甕類型　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・162
５－3. 近江地域の特徴が認められる受口甕　・・・・・・・・・・・・・・・・・162
５－4. 関東地方における近江系土器の特色　・・・・・・・・・・・・・・・・・169
おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・172

第７章　近江系土器の移動とその背景に関する考察

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・175
第１節　弥生・古墳時代における土器の移動に関する研究史・・・・・・・・・・175
第２節　近江系土器の移動現象に対する考古学理論の適用・・・・・・・・・・・181
２－1. 目的と方法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・181
２－2. 各資料の検討　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・182
２－3. 小結　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・187
第３節　甕形土器の移動に対する解釈・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・189
第４節　近江系土器の東方拡散とその意義に関する予察・・・・・・・・・・・・191
４－1. 関東地方における近江系手焙形土器の出土例　・・・・・・・・・・・・191
４－2. 手焙形土器に関する議論の展開　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・197
４－3. 前方後方墳と近江地域　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・200
４－4. 前方後方墳出土の近江系手焙形土器　・・・・・・・・・・・・・・・・・203
おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・206

第８章　近江地域からみた弥生・古墳時代移行期の変化

第１節　集落動態からみた近江地域の社会変化・・・・・・・・・・・・・・・・・209
第２節　近江地域の青銅器と「原倭国」論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・217
２－1. 弥生・古墳時代移行期における近江地域の青銅器　・・・・・・・・・・218
２－2. 弥生後期後半の「受口圏」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・222

2－3. 小結 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・223
第3節　近江系要素からみた「東海系のトレース」・・・・・・・・・・・・・・223
3－1.「東海系のトレース」再考の可能性・・・・・・・・・・・・・・・・・223
3－2. 関東地方の外来系土器研究の進展に向けて ・・・・・・・・・・・・224
第4節　研究の総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・225

おわりに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・231

引用文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・234
挿図表出典・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・245

本文（5 年以内に出版予定）

引用文献

【本文中の引用文献】

青木文彦編　2004『加倉洞雲寺境内遺跡　洞雲寺本堂建設に伴う埋蔵文化財の調査』埼玉県岩槻市遺跡調査会

赤塚次郎　1990「考察」『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財調査センター調査報告書 10, 愛知県埋蔵文化財センター , 50-132

赤塚次郎編　1990『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財調査センター調査報告書 10, 愛知県埋蔵文化財センター

赤塚次郎　1992a「東海系のトレース―3・4 世紀の伊勢湾沿岸地域―」『古代文化』44(6):35-49

赤塚次郎　1992b「瑞龍寺山山頂墳と山中様式」『弥生文化博物館研究報告』1:89-100

赤塚次郎　1994「松河戸様式の設定」赤塚次郎編『松河戸遺跡』愛知県埋蔵文化財調査センター調査報告書 48, 愛知県埋蔵文化財センター , 84-103

赤塚次郎　2001「邪馬台国時代の東海、伊勢湾から近江・大和」香芝市二上山博物館『シンポジウム『邪馬台国時代の近江と大和』資料集 , 二上山博物館友の会・ふたかみ史遊会 , 126-128

赤塚次郎　2002「濃尾平野における弥生時代後期の土器編年」『八王子遺跡　考察編』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 92, 愛知県教育サービスセンター・愛知県埋蔵文化財センター , 25-48

赤塚次郎　2003「東海・中部」『日本考古学協会　橿原大会資料』, 日本考古学協会 2002 年度橿原大会実行委員会 , 321-330

赤塚次郎　2006「古墳文化共鳴の風土」『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』7:62-71

赤塚次郎　2013「2・3 世紀の東海と関東　東海系トレース再論」『邪馬台国時代の関東と近畿』ふたかみ邪馬台国シンポジウム 13, 香芝市二上山博物館友の会「ふたかみ史遊会」

赤塚次郎・早野浩二　2001「松河戸・宇田様式の再編」『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』2:13-32

安達厚三・木下正史　1974「飛鳥地域出土の古式土師器」『考古学雑誌』60(2):1-30

安土城考古博物館　2011『第 2 回滋賀・大阪博物館連携企画「銅鐸を探る」平成 23 年度春季特別展　大岩山銅鐸から見えてくるもの』

池田　治　1994「弥生時代から古墳時代の土器について」『川崎市宮前区　野川東耕地遺跡発掘調査報告書』野川東耕地遺跡調査団 , 67-84

石井清司・小池寛　1993「燈籠寺遺跡第 6 次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』53, 京都府埋蔵文化財調査研究センター , 113-134

石黒立人　1988「伊勢湾地方から見た近江系土器―とくに弥生中期をめぐっての断想―」『年報　昭和 62 年度』愛知県埋蔵文化財センター , 138-147

石黒立人　1988「伊勢湾地方と琵琶湖地方、あるいは東西の結節点―弥生後期の土器様相を中心として―」『古代』86:123-150

石野博信　1985「移住した人々の住居」森浩一編『考古学と移住・移動』同志社大学考古学シリーズ 2, 同志社大学考古学シリーズ刊行会 , 235-244

石原道洋　1975「甕形土器の分類に関して」滋賀県教育委員会編『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告Ⅲ－Ⅱ』56, 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会

市村慎太郎　2016「後期タタキ甕の広がりについての素描」豆谷和之さん追悼事業会編『魂の考古学：豆谷和之さん追悼論文集』67-77

市村慎太郎　2019「中河内からみた庄内・布留式における列島各地との併行関係の整理（1)」『古墳出現期土器研究』6:41-50

伊庭　功　2012「近江の弥生集落とその動態」『近畿弥生の会企画シンポジウム「弥生時代の実像と動態を探る―モデル論を超えて―」発表要旨集』近畿弥生の会 , 37-57

伊庭　功　2019「近江地域の弥生土器研究における様式論」『淡海文化財論叢』11:25-30

岩崎卓也　1984「古墳出現期の一考察」『中部高地の考古学Ⅲ　八幡一郎先生頌寿記念論文集』長野県考古学会 , 237-252

岩崎直也　1990「住居形式からみた集落の一類型－堀上遺跡例から単一型集落を探る－」『滋賀考古』4:50-55

植田文雄　1994a「湖東北域の近江系について」『庄内式土器研究』6:1-24

植田文雄　1994b「古墳時代土器論：近江の土師器、その変遷と画期」『滋賀考古』12:1-45

植田文雄　2000「近江・湖東地域の弥生集落」池田保信編『みずほ』33:76-89
植田文雄　2007『「前方後方墳」出現社会の研究』学生社
宇佐晋一・小川敏夫・星野猷二　1964「深草遺跡」『古代学研究』39:8-14
及川良彦・池田治・北村尚子　1994「関東における近江系について」『庄内式土器研究Ⅷ―庄内式併行期の土器生産とその動き―「庄内式期の土器の併行関係」』庄内式土器研究会，126-149
大沼芳幸　1990「北地区」『正伝寺南遺跡（本文編）』一般国道 161 号線（高島バイパス）建設に伴う新旭町内遺跡発掘調査報告書 1, 滋賀県教育委員会文化部文化財保護課・滋賀県文化財保護協会，9-16
大橋信弥　1987「近江型甕についての若干の整理」『服部遺跡発掘調査報告書Ⅲ－滋賀県守山市服部町所在－』滋賀県教育委員会・守山市教育委員会・滋賀県文化財保護協会，242-253
大参義一　1968「弥生式土器から土師器へ―東海地方西部の場合―」『名古屋大学文学部研究論集』47:65-98
大村　直　2004「山田橋遺跡群および市原台地周辺地域の後期弥生土器」『市原市山田橋大山台遺跡』市原市文化財センター調査報告書第 88 集，市原市文化財センター，281-309
大村　直　2009「総括」『市原市南中台遺跡・荒久遺跡 A 地点　上総国分寺台遺跡調査報告ＸＸ』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書 10, 市原市教育委員会・市原市埋蔵文化財調査センター，299-344
岡本欣子　1985「手焙形土器考」『松岡秀夫傘寿記念論文集』刊行会『松岡秀夫傘寿記念論文集　兵庫史の研究』岡本行雄，161-192
岡山県古代吉備文化財センター　2000『高塚遺跡　三手遺跡 2　山陽自動車道建設に伴う発掘調査 18（第 1 分冊）』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 150, 岡山県教育委員会
置田雅昭　1974「大和における古式土師器の実態－天理市布留遺跡出土資料－」『古代文化』26(2):1-29
奥田　尚　1994「神奈川県の遺跡の土器の砂礫」『庄内式土器研究Ｖ―庄内式併行期の土器生産とその動き―「関東における庄内式併行期の土器の移動」』庄内式土器研究会，44-55
奥谷博之編　2005『北府 A 遺跡』武生市埋蔵文化財調査報告 24, 福井県武生市教育委員会
尾嵜大真・今村峯雄　2007「日本産樹木年輪試料中の炭素 14 濃度を基にした較正曲線の作成」『国立歴史民俗博物館研究報告』137:61-77
小高春雄・田村隆・加納実・神野信・笹生衛　1993『滝ノ口向台遺跡・大作古墳－一般県道君津平川線県単道路改良（幹線道路網整備）工事に伴う埋蔵文化財調査報告書－』千葉県文化財センター調査報告書第 232 集，千葉県文化財センター
兼康保明　1977「要説」滋賀県文化財保護協会編『久野部遺跡発掘調査報告書』野洲町教育委員会・滋賀県文化財保護協会編，10-17
兼康保明　1990「近江地域」寺沢薫・森岡秀人編『弥生土器の様式と編年：近畿編Ⅱ』木耳社，321-419
岸本直文　2014「倭における国家形成と古墳時代開始プロセス」『国立歴史民俗博物館研究報告』185:369-403
岸本道昭　1998「掘立柱建物からみた弥生集落と首長：兵庫県と周辺の事例から」『考古学研究』44(4):79-91
北村尚子　1997「古墳時代初頭の土器分布圏の変容とその背景～相模・南武蔵における甕形土器の分析から～」『民族考古－大学院論集－』4:35-70
北原　治・金松　誠・田中咲子編　2010『十里遺跡』滋賀県教育委員会事務局文化財保護課・滋賀県文化財保護協会
木野瀬正典・小田寛貴・赤塚次郎・山本直人・中村俊夫　2005「弥生・古墳時代の土器に付着した炭化物の AMS14C 年代測定－愛知・石川県の遺跡から出土した土器について－」『名古屋大学加速器質量分析計業績報告』16:95-104
國下多美樹　1989「近江系土器について」『京都府弥生土器集成』京都府埋蔵文化財調査研究センター，84-128
倉田直純　1990「才良遺跡」『平成元年度農業基盤整備事業地域　埋蔵文化財発掘調査報告―第 1 分冊―』三重県埋蔵文化財調査報告 92-1, 三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター，60-77
黒坂秀樹・沢村治郎・的場幸一　2001『古保利古墳群　古保利古墳群第1次確認調査報告書』高月町埋蔵文化財調査報告書第5集，高月町教育委員会
黒坂秀樹　2006「近江の出現期古墳－湖北地域を中心として－」『古式土師器の年代学』大阪府文化財センター，329-370
桑原久男　2012a「近畿における弥生セトルメントシステム再構築は可能か：酒井モデルの批判的検討」『「弥生時代の実像と動態を探る：モデル論を超えて」発表要旨集』近畿弥生の会企画シンポジウム，1-12

桑原久男　2012b「奈良盆地の拠点集落の面積をはかる」『みずほ』43:17-26
桑原久男　2013「搬入土器の動向からみた弥生時代の奈良盆地―近江系土器を中心に―」岡内三眞編『技術と交流の考古学』同成社，494-501
考古学研究会編　2014『考古学研究会 60 周年記念誌　考古学研究 60 の視点』
合田芳正・大坪宣雄・碓井三子・及川良彦・池田治編　1994『川崎市宮前区　野川東耕地遺跡発掘調査報告書』野川東耕地遺跡調査団
古代学研究会編　2016『集落動態からみた弥生時代から古墳時代への社会変化』六一書房
小竹森直子　1988「近江の地域色の再検討：弥生時代後期～古墳時代初頭における高坏形土器・器台形土器の実態」『紀要』1:13-28
小竹森直子　1989「近江の地域色の再検討 2―周辺地域における近江系土器について―」『紀要』2:1-15
小竹森直子　1990「手焙形土器雑想―葛籠尾崎湖底遺跡出土品に寄せて―」『紀要』3:34-48
小竹森直子　1993「弥生時代から古墳時代初頭土器群について」」『針江川北（Ⅱ）遺跡・吉武城遺跡（本文編）』一般国道 161 号線（高島バイパス）建設に伴う新旭町内遺跡発掘調査報告書 5，滋賀県教育委員会事務局文化財保護課・滋賀県文化財保護協会，232-241
小貫　充　2018「出現期の手焙形土器について」『待兼山論集Ⅲ』大阪大学考古学研究室，141-152
小橋健司　1998「手焙形土製品の研究」『史館』30:50-95
小林謙一・春成秀爾・今村峯雄・坂本稔・尾嵜大真・新免歳靖・松崎浩之・中村俊夫・藤田三郎　2006「唐古・鍵遺跡、清水風遺跡出土試料の 14C 年代測定」『田原本町文化財調査年報』14:123-138
小林謙一・春成秀爾・坂本稔・秋山浩三　2008「河内地域における弥生前期の炭素 14 年代測定研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』139:17-51
小林行雄　1959「形式・型式」水野清一・小林行雄編『図解　考古学辞典』東京創元社，296-297
小森俊寛・大洞真白・備前知世　2013『美濃山廃寺（第 8 次）・美濃山廃寺下層遺跡（第 11 次）発掘調査報告書』八幡市埋蔵文化財発掘調査報告 58
近藤　広　1992「土器からみた湖南的要素と湖東的要素：弥生時代後期後葉から古墳時代前期を中心に」『滋賀考古』7:29-40
近藤　広　1994「受口状口縁をもつ近江型土器の再検討―近江南部の受口状口縁甕を中心に―」『滋賀考古』12:65-71
近藤　広　1999「近江野洲川流域における中・後期の弥生集落」『第 45 回埋蔵文化財研究集会　弥生時代の集落－中・後期を中心として－発表要旨集』第 45 回埋蔵文化財研究集会実行委員会，117-136
近藤　広　2001「弥生後期における受口状口縁土器の様相：近江の地域区分と他地域への影響」西田弘先生米寿記念論集刊行会編『近江の考古と歴史：西田弘先生米寿記念論集』真陽社，91-101
近藤　広　2006a「下鈎遺跡」『栗東市埋蔵文化財発掘調査 2004 年度年報』栗東市文化体育振興事業団文化財センター，28-31
近藤　広　2006b「近江南部における弥生集落と大型建物」広瀬和雄・伊庭功編『日本考古学協会 2003 年度滋賀大会シンポジウム 1　弥生の大型建物とその展開』，サンライズ出版，11-27
近藤　広　2009「 滋賀県における弥生時代後期の社会変化 」『第 58 回埋蔵文化財研究集会　弥生時代後期の社会変化　発表要旨資料集』第 58 回埋蔵文化財研究集会実行委員会，235-242
近藤　広　2010『下鈎遺跡発掘調査報告書』栗東市文化財調査報告書，30
近藤広・松村浩編　2011『下鈎遺跡発掘調査報告書　平成 22 年度 1 次調査』栗東市文化財調査報告書，41
佐伯英樹　1995「近畿 1（滋賀県）」第 37 回埋蔵文化財研究集会実行委員会編『第 37 回埋蔵文化財研究集会　ムラと地域社会の変貌―弥生から古墳へ―　発表要旨資料』埋蔵文化財研究会，71-88
佐伯英樹　2001「下鈎遺跡」『栗東町埋蔵文化財発掘調査 1999 年度年報』栗東町文化体育振興事業団埋蔵文化財調査課，38-41
佐竹章吾　1989「原始における住居型式について」『滋賀考古』1:50-51
佐原　真　1960「弥生式時代」中村直勝編『彦根市史　上冊』彦根市役所，88-107
佐原　真　1968a「畿内地方」小林行雄・杉原荘介編『弥生式土器集成』本編 2，東京堂出版，53-72
佐原　真　1968b「琵琶湖地方」小林行雄・杉原荘介編『弥生式土器集成』本編 2，東京堂出版，73-76

佐原　真　1970「大和川と淀川」『古代の日本　第5巻　近畿』角川書店，24-43
佐原　真　1972「1971年の考古学会の動向－弥生時代（下）－」『月刊　考古学ジャーナル』74:3-13
沢村治郎編　2014『物部遺跡第26次調査報告書』長浜市埋蔵文化財調査資料145，長浜市教育委員会
三江文化財研究院　2009『金海　會峴里貝塚Ⅰ・Ⅱ』
滋賀県教育委員会　1973『国道8号線長浜バイパス関連遺跡調査報告書Ⅱ』
滋賀県教育委員会　1976『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告Ⅲ－Ⅱ』
滋賀県教育委員会文化部文化財保護課・滋賀県文化財保護協会　1980『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅶ－3』
滋賀県教育委員会文化部文化財保護課・滋賀県文化財保護協会　1992『針江北遺跡・針江川北遺跡（Ⅰ）』一般国道161号線（高島バイパス）建設に伴う新旭町遺跡発掘調査報告書，4
滋賀考古学会　1990「弥生時代の近江と周辺地域」『滋賀考古』3:37-93
滋賀県教育委員会文化部文化財保護課・滋賀県文化財保護協会　1992『針江北遺跡・針江川北遺跡（Ⅰ）』一般国道161号線（高島バイパス）建設に伴う新旭町遺跡発掘調査報告書4
設楽博己　2009「独立棟持柱建物と祖霊祭祀」『国立歴史民俗博物館研究報告』149:55-90
清水邦彦　2017「弥生時代鋳造技術と工人集団－近畿地域出土送風管の検討を中心に－」『日本考古学』44:27-45
清水真一　1999「城島遺跡出土木製品のもつ意義」『光陰如矢―荻田昭次先生古稀記念論集―』「光陰如矢」刊行会，159-164
清水政宏　2004『山奥遺跡Ⅱ』四日市市埋蔵文化財発掘調査報告書32
庄内式土器研究会　1994a『庄内式土器研究Ⅳ－庄内式併行期の土器生産とその動き－「近江系土器の実態とその移動」』
庄内式土器研究会　1994b『庄内式土器研究Ⅷ―庄内式併行期の土器生産とその動き―「庄内式期の土器の併行関係」』
白井久美子　1981「市原市上総国分寺台出土の東海系「有段口縁」甕形土器について」『古代』71:48-64
白井久美子　2002「古墳時代前期の地域圏形成」『古墳から見た列島東縁世界の形成』千葉大学考古学研究叢書2，平電子印刷所，97-117
杉浦隆支・植田文雄・奥田尚・植田弥生・能城修一・新山雅広　2005『石田遺跡：能登川駅西土地区画整理事業に伴う発掘調査』能登川町埋蔵文化財調査報告書58，能登川町教育委員会・能登川町埋蔵文化財センター
杉浦隆支・植田文雄　2005『石田遺跡（19・21次）・殿衛遺跡（3次）』能登川町埋蔵文化財調査報告書第60集，能登川町教育委員会・能登川町埋蔵文化財センター
杉原荘介・大塚初重　1960「京都府　深草遺跡」杉原荘介編『日本農耕文化の生成　第二冊　図録篇』東京堂出版
杉原荘介・大塚初重　1961「京都府　深草遺跡」杉原荘介編『日本農耕文化の生成　第一冊　本文篇』東京堂出版，339-354
杉本源造　1989「近江弥生社会の動態」『古代学研究』119:1-25
関川尚功　1976a「土器」奈良県立橿原考古学研究所編『纒向』奈良県桜井市教育委員会，119-276
関川尚功　1976b「畿内地方の古式土師器」奈良県立橿原考古学研究所編『纒向』奈良県桜井市教育委員会，460-500
高田博・加藤修司・小久貫隆史　2000「前期古墳等の概要」『千葉県文化財センター研究紀要』21:43-318
高野陽子　2002「近畿地方北部の土器」赤塚次郎編『考古資料大観2：弥生・古墳時代　土器Ⅱ』小学館，229-236
高野陽子　2003a「弥生～古墳時代の土器」奥村清一郎・竹原一彦・森島康雄・伊賀高弘・高野陽子編『佐山遺跡』京都府遺跡調査報告書33，京都府埋蔵文化財センター，70-79
高野陽子　2003b「出土遺物の検討」奥村清一郎・竹原一彦・森島康雄・伊賀高弘・高野陽子編『佐山遺跡』京都府遺跡調査報告書33，京都府埋蔵文化財センター，97-135
高橋一夫　1985「関東地方における非在地系土器出土の意義」『草加市史研究』4:1-56
高橋一夫　1998『手焙形土器の研究』六一書房
高橋一夫　2003「手焙形土器の性格と型式」『國學院大學考古学資料館紀要　加藤有次先生古稀記念』19:81-92
田口一郎　1987「パレス・スタイル壺の末裔たち」『第3回東海埋蔵文化研究会「欠山式土器とその前後」研究・報告編』愛知考古学談話会，95-112
武末純一・伊庭功・辻川哲朗・杉山拓己　2011「金海會峴里貝塚出土の近江系土器」『古代文化』63(2):101-268
田嶋明人　1986「考察－漆町遺跡出土土器の編年的考察－」『漆町遺跡Ⅰ』石川県立埋蔵文化財センター，101-186
田嶋明人　2008「古墳確立期土器の広域編年・・・東日本を対象とした検討（その1）・・・」『石川県埋蔵文化財情報』20: 33-

59
田嶋明人 2013 「4 期の画期をめぐって」『東生』2:1-15
千喜良淳 1987 「弥生時代の畑ノ前遺跡」川西宏幸・植山茂・定森秀夫・山田邦和編『京都府 (仮称) 精華ニュータウン予定地内遺跡発掘調査報告書－煤谷川窯址・畑ノ前遺跡－』古代学協会 , 207-222
千喜良淳編 2002『大藪遺跡発掘調査報告書』大藪遺跡発掘調査団・安西工業株式会社調査部
次山 淳 2014 「古墳出現期の社会と土器の移動」『史林』97(1):7-35
都出比呂志 1979 「ムラとムラとの交流：集落と地域圏」樋口隆康編『図説日本文化の歴史 1：先史・原始』小学館 , 153-176
都出比呂志 1983 「弥生土器における地域色の性格」『信濃』35(4):245-257
都出比呂志 1989『日本農耕社会の成立過程』岩波書店
都出比呂志 1989 「弥生土器の生産形態」『日本農耕社会の成立過程』岩波書店 , 287-297
坪井清足 1956『岡山県笠岡市高島遺蹟調査報告』岡山縣高島遺蹟調査委員會
津屋崎町教育委員会 1981『今川遺跡』津屋崎町文化財調査報告書第 4 集
寺沢 薫 1979 「ヤマト社会の展開とその特質―初期ヤマト政権成立史の再検討―」橿原考古学研究所編『橿原考古学研究所論集』4:39-78
寺沢 薫 1980 「出土遺物」奈良県立橿原考古学研究所編『六条山遺跡』奈良県文化財調査報告書 34, 奈良県教育員会 , 27-142
寺沢 薫 1980 「大和におけるいわゆる第五様式土器の細別と二・三の問題」奈良県立橿原考古学研究所編『六条山遺跡』奈良県文化財調査報告書 34, 奈良県教育員会 , 155-196
寺沢 薫 1984 「纒向遺跡と初期ヤマト政権」橿原考古学研究所編『橿原考古学研究所論集』6:35-72
寺沢 薫 1986a 「古式土師器の形式分類」奈良県立橿原考古学研究所編『矢部遺跡－国道 24 号線橿原バイパス建設に伴う遺跡調査報告 (Ⅱ) －』奈良県教育委員会 , 64-84
寺沢 薫 1986b 「畿内古式土師器の編年と二・三の問題」奈良県立橿原考古学研究所編『矢部遺跡－国道 24 号線橿原バイパス建設に伴う遺跡調査報告 (Ⅱ) －』奈良県教育委員会 , 327-398
寺沢 薫 1988 「纒向型前方後円墳の築造」森浩一編『考古学と地域文化』同志社大学考古学シリーズ 4:99-111
寺沢 薫 2000『王権誕生』日本の歴史 2, 講談社
寺沢薫・佐々木好直編 2002『箸墓古墳周辺の調査 ―国営農地防災溜池工事に伴う箸墓古墳周辺第 7・8・10 次発掘調査報告書』奈良県文化財調査報告 89, 奈良県橿原考古学研究所
寺沢 薫 2011『弥生時代政治史研究 王権と都市の形成史論』吉川弘文館
寺沢 薫 2016 「ヤマト社会の展開とその特質 (再論)」『纒向学研究センター研究紀要 纒向学研究』4:3-47
戸塚洋輔 2014 「近江地域―南部を中心に」『古代学研究会 2014 年度拡大例会・シンポジウム 集落動態からみた弥生時代から古墳時代への社会変化』古代学研究会 , 59 -96
戸塚洋輔 2016 「近江地域」古代学研究会編『集落動態からみた弥生時代から古墳時代への社会変化』六一書房 , 101-130
中居和志 2010 「 古墳出現前後の近江地域：土器編年を中心に 」『立命館大学考古学論集Ⅴ』立命館大学考古学論集刊行会 , 125-148
中居和志 2013 「古墳出現期における受口状口縁土器群の動態 」『立命館大学考古学論集 Ⅵ 和田晴吾先生定年退職記念論集』立命館大学考古学論集刊行会 , 219-230
中居和志 2016 「近江系土器と受口状口縁土器」『古墳出現期土器研究』4:73-80
長友朋子 2013 「弥生時代の土器生産体制」『弥生時代土器生産の展開』六一書房 , 71-134
中西常雄 1979 「大津市北郊地域の弥生・土師の研究：北大津遺跡出土土器の編年的研究より」中西常雄編『北大津の変貌：弥生時代から古墳時代へ』1-23
中西常雄 1985 「近江における甕形土器の動向：庄内期を中心にして」『考古学研究』32(1):61-80
中屋克彦 1994 「加賀における近江系について」『庄内式土器研究Ⅵ―庄内式併行期の土器生産とその動き―「近江系土器の実態とその移動」』庄内式土器研究会 , 96-108
中山俊紀 1986 「岡山県北部におけるいわゆる「山陰系」土器の様相」第 18 回埋蔵文化財研究会事務局『第 18 回埋蔵文化財

研究会　弥生時代後期から古墳時代初頭のいわゆる山陰系土器について　発表記録』47-54
難波洋三　1986「銅鐸」『弥生文化の研究　第 6 巻　道具と技術』雄山閣 , 132-145
難波洋三　2006「近畿式・三遠式銅鐸の成立」『歴博国際シンポジウム 2006　古代アジアの青銅器文化と社会―起源・年代・系譜・流通・儀礼―発表要旨集』国立歴史民俗博物館 , 109-114
難波洋三　2010「近畿式銅鐸の成立と展開」『銅鐸博物館開館 20 周年記念 シンポジウム「銅鐸の始まりと終わり」』野洲市歴史民俗博物 , 13-42
西川修一　1991「関東のタタキ甕」『神奈川考古』27:107-133
西川修一　2016「列島東部への東海系波及の経路について－「東海系のトレース」再考－」『土曜考古学研究会　10 月例会発表要旨』
西　邦和　2000『佐生北遺跡（2 次）・石田遺跡（6 次）』能登川町埋蔵文化財調査報告書第 49 集
西邦和・杉浦隆支　2003『石田遺跡（13-2 次）石田遺跡（17 次）殿衛遺跡（1 次）長福寺（3 次）』能登川町埋蔵文化財調査報告書 54
西村　歩　2008「中河内地域の古式土師器編年と諸問題」ふたかみ邪馬台国シンポジウム 8　シンポジウム『邪馬台国時代の摂津・河内・和泉と大和』資料集』香芝市教育委員会 , 1-42
西原崇浩編　2002『千束台遺跡群発掘調査報告 VI』木更津市教育委員会
沼津市教育委員会編　2012『高尾山古墳発掘調査報告書』沼津市文化財調査報告書 104
萩原恭一・白井久美子・亀井宏行　2000「君津市浅間神社古墳測量調査報告」千葉県史料研究財団編『千葉県史研究』8: 127-140
橋本輝彦　2006「纒向遺跡の出現期古墳出土土器とその年代」『古式土師器の年代学』大阪府文化財センター , 285-306
浜崎悟司　1987「弥生土器甕にみられる地域色－山城～近江地方弥生時代中期前半の甕－」『滋賀県埋蔵文化財センター紀要』1:21-30
林　博道編　1975「小結」滋賀県教育委員会編『坂口遺跡発掘調査報告書』滋賀県文化財保護協会 , 21-24
早野浩二　2011「土師器の編年④東海」一瀬和夫・福永伸哉・北條芳隆編『古墳時代の考古学 1 : 古墳時代史の枠組み』同成社 , 95-108
早野浩二　2013「「庄内式」の成立、「漆町 4 群」の画期と東海の土器編年」『東生』2:23-28
春成秀爾　1984「前方後円墳論」井上光貞・西嶋定生・甘粕健・武田幸男編『倭国の形成と古墳文化』東アジア世界における日本古代史講座第 2 巻 , 学生社 , 205-243
春成秀爾・小林謙一・坂本稔・今村峯雄・尾嵜大真・藤尾慎一郎・西本豊弘　2011「古墳出現期の炭素 14 年代測定」『国立歴史民俗博物館研究報告』163:133-176
伴野幸一　2000「湖南地域における弥生集落の動向―野洲川流域の弥生中期後半から後期の集落をめぐって―」池田保信編『みずほ』33:60-75
伴野幸一　2003「滋賀県野洲川流域の遺跡群と受口状口縁甕の変遷：近江における古墳出現期の土器と年代」『古墳出現期の土師器と実年代　シンポジウム資料集』大阪府文化財センター , 113-122
伴野幸一　2006「近江地域：野洲川流域を中心に」『古式土師器の年代学』大阪府文化財センター , 49-66
伴野幸一　2009『伊勢遺跡確認調査概要』伊勢遺跡確認調査報告書 7
東山信治・島根県教育庁埋蔵文化財調査センター編　2012『山持遺跡　Vol. 8（6・7 区）』国道 431 号道路改築事業（東林木バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 10, 島根県教育委員会
樋上　昇編　2002『八王子遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 92, 愛知県教育サービスセンター・愛知県埋蔵文化財センター
比田井克仁　1987「南関東出土の北陸系土器について」『古代』83:45-82
比田井克仁　2000「受口状口縁甕考」『西相模考古』9:1-28
比田井克仁　2001『関東における古墳出現期の変革』雄山閣
比田井克仁　2004「土器移動の類型と原理」『古墳出現期の土器交流とその原理』雄山閣 , 240-258
比田井克仁　2011「弥生・古墳時代の土器移動類型」今村啓爾編『異系統土器の出会い』同成社 , 137-149

平井美典・中村智孝・中川正人・新山雅広・藤根久・竹原弘展・川本耕三・山田卓司・鹿又喜隆・酒井公美子・池田利晴編　2008『柳遺跡Ⅳ』草津川改修事業ならびに草津川放水路建設事業に伴う発掘調査報告書Ⅺ，滋賀県教育委員会事務局文化財保護課

福岡澄男　1973「遺物の検討」財団法人滋賀県文化財保護協会・湖西線関係遺跡発掘調査団編『湖西線関係遺跡調査報告会（本文編）』滋賀県教育委員会，119-132

福田典明　1994「伊賀における近江系について」」『庄内式土器研究Ⅷ―庄内式併行期の土器生産とその動き―「庄内式期の土器の併行関係」』庄内式土器研究会，101-112

藤田三郎　1999「奈良盆地における弥生遺跡の実態」森浩一・松藤和人編『考古学に学ぶ：遺構と遺物』同志社大学考古学シリーズ 7, 135-148

古屋紀之　2013「横浜市都筑区北川谷遺跡群における弥生時代後期～古墳時代前期の土器編年」『横浜市歴史博物館　紀要』17:1-30

穂積裕昌・小林俊之編　2002『一般国道 23 号中勢道路（8 工区）建設事業に伴う六大 A 遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財調査報告 115-16, 三重県埋蔵文化財センター

堀　大介　2006「越前・加賀地域」『古式土師器の年代学』大阪府文化財センター，21-46

本堂弘之・山口格・村木一弥・上村安生編　2006『一般国道 23 号中勢道路（9 工区）建設事業に伴う六大 B 遺跡（B ～ I 地区）発掘調査報告』三重県埋蔵文化財調査報告 115-11, 三重県埋蔵文化財センター

埋蔵文化財研究会第 40 回記念研究集会実行委員会編　1996a『埋蔵文化財研究会第 40 回記念研究集会　考古学と実年代　第Ⅰ分冊　資料集』埋蔵文化財研究会第 40 回記念研究集会実行委員会

埋蔵文化財研究会第 40 回記念研究集会実行委員会編　1996b『埋蔵文化財研究会第 40 回記念研究集会　考古学と実年代　第Ⅱ分冊　資料集』埋蔵文化財研究会第 40 回記念研究集会実行委員会

松室孝樹　1998「姉川左岸地域における遺跡の動態―弥生時代後期から古墳時代にかけて―」『滋賀考古』19:1-23

松室孝樹　2000「近江・湖北地域における弥生時代集落の様相―中期から後期を中心に―」池田保信編『みずほ』33:90-104

継　実　1998「1 号土器集中出土の手焙形土器について」継実・桜井準也編　1998『神奈川県藤沢市若尾山（藤沢市 No.36）遺跡－藤沢市立大道小学校内地点－発掘調査報告書』東国歴史考古学研究所調査研究報告 16, 東国歴史考古学研究所，287-302

継実・桜井準也編　1998『神奈川県藤沢市若尾山（藤沢市 No.36）遺跡－藤沢市立大道小学校内地点－発掘調査報告書』東国歴史考古学研究所調査研究報告 16, 東国歴史考古学研究所

丸山雄二　1996『大塚遺跡Ⅱ：弥生時代後期から古墳時代の集落遺跡の調査』長浜市埋蔵文化財調査資料 14

三木健裕　2020「工芸品の生産組織を問い直す―工芸の専業化とむすびついた生産組織の研究手法の課題、および生産組織の関係論的な研究手法に関する一考察―」『西アジア考古学』21:41-59

水沢教子　2014『縄文社会における土器の移動と交流』雄山閣

水沢教子　2014「先史・古代社会の領域と交流に関する研究史」『縄文社会における土器の移動と交流』雄山閣，17-41

光谷拓実　1995「古墳の年代を年輪から計る」『考古学と自然科学』31・32:11-22

光谷拓実　1997「池上曽根遺跡の大型掘立柱建物の年輪年代」『奈良国立文化財研究所年報 1997 －Ⅰ』奈良国立文化財研究所，4-5

光谷拓実　2001「下長遺跡出土柱根、槽の年輪年代」『下長遺跡発掘調査報告書Ⅸ』守山市教育委員会

光谷拓実　2002a「掘立柱建物の柱根の樹種と年輪年代」『大藪遺跡発掘調査報告書』大藪遺跡発掘調査団・安西工業株式会社調査部，28-30

光谷拓実　2002b「年輪年代から見た古墳時代の始まり－勝山古墳出土木材の分析から－」『奈良文化財研究所紀要 2002』奈良文化財研究所，16-17

宮腰健司　2003「1　八王子遺跡」愛知県史編さん委員会編『愛知県史　資料編 2　考古 2　弥生』愛知県，30-39

宮崎幹也　1990「第 6 章　まとめ」『法勝寺遺跡』近江町文化財調査報告書 6, 近江町教育委員会編，63-68

宮崎幹也　1994a「黒田遺跡を取り巻く土器編年」『黒田遺跡 3』近江町文化財調査報告書 17, 近江町教育委員会，58-86

宮崎幹也　1994b「北近江の土器様相」『庄内式土器研究Ⅵ―庄内式併行期の土器生産とその動き―「近江系土器の実態とその移

動」』45-66, 庄内式土器研究会
宮崎康雄編　1996『古曽部・芝谷遺跡－高地性集落遺跡の調査－』高槻市文化財調査報告書 20, 高槻市立埋蔵文化財調査センター
宮成良佐　1988「遺構及び出土遺物」『越前塚遺跡発掘調査報告書』長浜市埋蔵文化財調査資料 5, 長浜市教育委員会 , 25-58
森浩一編　1985『考古学と移住・移動』同志社大学考古学シリーズ 2, 同志社大学考古学シリーズ刊行会
森井貞雄　2001「近畿地方の環濠集落」大阪府立弥生文化博物館編『弥生時代の集落』学生社 , 135-155
森岡秀人　1984「大阪湾沿岸の弥生土器の編年と年代」『高地性集落と倭国大乱』雄山閣 , 225-262
森岡秀人　1985「弥生時代暦年代論をめぐる近畿第Ⅴ様式の時間幅」『信濃』37(4):243-264
森岡秀人　1998「年代論と邪馬台国論争」都出比呂志・田中琢編『権力と国家と戦争』古代史の論点 4:112-140
森岡秀人　1993「土器移動の諸類型とその意味」『転機　4 号　東海系土器の移動から見た東日本の後期弥生土器　第 8 回東海埋蔵文化財研究会　論考編』向坂鋼二 , 29-45
森岡秀人　2000「弥生集落研究の新動向（Ⅳ）―小特集「琵琶湖周辺における集落の様相」に寄せて―」池田保信編『みずほ』33:105-124
森岡秀人　2005「新しい年代論と新たなパラダイム」『古墳のはじまりを考える』学生社 , 113-173
森岡秀人　2006「大型建物と方形区画からみた近畿の様相」広瀬和雄・伊庭功編『日本考古学協会 2003 年度滋賀大会シンポジウム 1　弥生の大型建物とその展開』, サンライズ出版株式会社 , 115-144
森岡秀人　2014「弥生小形仿製鏡はなぜ生まれたか」『季刊考古学』127:74-77
森岡秀人　2015「倭国成立過程における「原倭国」の形成―近江の果たした役割とヤマトへの収斂―」寺沢薫・橋本輝彦編『纒向学研究センター研究紀要　纒向学研究』3:39-55
森岡秀人・西村歩編　2006『古式土師器の年代学』大阪府文化財センター
森田克行　1977「受口状口縁土器とＳ字状口縁土器」森田克行・橋本久和編『安満遺跡発掘調査報告書』高槻市文化財調査報告書第 10 冊 , 高槻市教育委員会 , 55-59
守山市教育委員会　2012『歴史フォーラム－伊勢遺跡国史跡指定指定記念－倭国の形成と伊勢遺跡　資料編』
安岡路洋　1958「岩槻市加倉遺蹟報告書」『埼玉研究』2:44-50
野洲町教育委員会・野洲町埋蔵文化財調査会　1991『野洲川左岸遺跡発掘調査報告』3
野洲市教育委員会文化財保護課　2010『 平成 21 年度　野洲市埋蔵文化財調査概要報告書 2』
矢作健二・赤塚次郎　2003「八王子古宮式と近江湖南型甕」『愛知県埋蔵文化財センター　研究紀要』4:34-44
山崎秀二　1986a「寺中遺跡発掘調査概報」『守山市文化財調査報告書　第 20 冊』守山市教育委員会 , 16-29
山崎秀二　1986b「まとめ　受口状口縁甕の系統について－本報告のまとめにかえて－」『守山市文化財調査報告書　第 20 冊』守山市教育委員会 , 62-67
山下優介　2015「 弥生・古墳時代の独立棟持柱建物に関する考察 」『筑波大学　先史学考古学研究』26: 23-47
山下優介　2016「 近江地域における弥生時代後期の集団関係 」東京大学大学院人文社会系研究科修士学位論文
山下優介　2018「弥生時代後期における甕形土器の採用比率とその背景 : 滋賀県を中心として」『東京大学考古学研究室研究紀要』31:61-84
山本直人・赤塚次郎　2004「濃尾平野における弥生後期～古墳前期の炭素 14 年代と測定と炭素安定同位体比」『名古屋大学加速器質量分析計業績報告』15, 名古屋大学年代測定資料研究センター , 136-143
用田雅晴　1985「虎姫町五村遺跡出土のＬ字形筒状土製品」『滋賀文化財だより』98, 1-2
横井川博之　2000「湖西地域における弥生集落の様相」池田保信編『みずほ』33:46-59
若林邦彦　2018「近畿地方弥生時代諸土器様式の暦年代−石川県八日市地方遺跡の研究成果との対比−」『実証の考古学　松藤和人先生退職記念論文集』同志社大学考古学シリーズ 12, 同志社大学考古学研究室 , 119-129
若林邦彦　2020「気候変動と古代国家形成・拡大期の地域社会構造変化の相関―降水量変動と遺跡動態から―」中塚武・若林邦彦・樋上昇編『先史・古代の気候と社会変化』気候変動から読み直す日本史 3, 臨川書店 , 101-129
若杉智宏・田中元浩　2015「和田廃寺 SD145 出土古式土師器について」『奈良文化財研究所紀要 2015』国立文化財機構奈良文化財研究所 , 116-122

若松美智子 1998「1 号土器集中出土の受口状口縁甕について」継実・桜井準也編 1998『神奈川県藤沢市若尾山（藤沢市No.36）遺跡－藤沢市立大道小学校内地点－発掘調査報告書』東国歴史考古学研究所調査研究報告 16, 東国歴史考古学研究所 , 275-286

若松良一 1984「近江系弥生土器の成立と展開」寺島孝一編『平安京跡研究調査報告 第 11 集 平安京左京四条三坊十三町－長刀鉾町遺跡－』古代学協会 , 91-94

Anthony, D. 1997 Prehistoric Migration As Social Process.In J.Chapman and H.Hamerow(eds.), *Migrations and Invasions in Archaeological Explanation*, BAR International Series 1122, 21-32, Basingstoke press.

Flannery, K.V. 1998 The Ground Plans of Archaic States. In G.M.Feinman and J.Marcus(eds.), *Archaic States*, 55-58, School of American Research Press.

Reimer, P.J. W.E.N.Austin, E.Bard, A.Bayliss, P.G.Blackwell, C.B.Ramsey, M.Butzin, H.Cheng, R.L.Edwards, M.Friedrich, P.M.Grootes, T.P.Guilderson, I.Hajdas, T.J.Heaton, A.G.Hogg, K.A.Hughen, B.Kromer, S.W.Manning, R.Muscheler, J.G.Palmer, C.Pearson, J.van der Plicht, R.W.Reimer, D.A.Richards, E.M.Scott, J.R.Southon, C.S.M.Turney, L.Wacker, F.Adolphi, U.Büntgen, M.Capano, S.M.Fahrni, A.Fogtmann-Schulz, R.Friedrich, P.Köhler, S.Kudsk, F.Miyake, J.Olsen, F.Reinig, M.Sakamoto, A.Sookdeo, S.Talamo 2020 The IntCal20 Northern Hemisphere Radiocarbon Age Calibration Curve (0-55 CAL kBP). *Radiocarbon* 62(4):725-757.

Sakamoto, M. M.Imamura, J.van der Plicht, T.Mitsutani and M.Sahara 2003 Radiocarbon Calibration For Japanese Wood Samples. *Radiocarbon* 45(1):81-89.

Yasur-Landau, A. 2010 *The Philistines And Aeagean Migration At The End Of The Late Bronze Age*, Cambridge University press.

【第 2 章 土器編年に使用した文献】

1. 北村 彰 1977『昭和 51 年度 南市東遺跡発掘調査概報』安曇川町教育委員会
2. 中江彰編 1979『南市東遺跡発掘調査概報』安曇川町教育委員会
3. 大沼芳幸・清水尚編 1990『正伝寺南遺跡（本文編）』一般国道 161 号線（高島バイパス）建設に伴う新旭町内遺跡発掘調査報告書 1, 滋賀県教育委員会文化部文化財保護課・滋賀県文化財保護協会
4. 滋賀県教育委員会文化部文化財保護課・滋賀県文化財保護協会 1992『針江北遺跡・針江川北遺跡（Ⅰ）（本文編）』一般国道 161 号線（高島バイパス）建設に伴う新旭町遺跡発掘調査報告書 4
5. 清水尚・小竹森直子・大崎哲人・畑中英二・出渕順子・中村ますみ編 1993『針江川北（Ⅱ）遺跡・吉武城遺跡（本文編）』一般国道 161 号線（高島バイパス）建設に伴う新旭町内遺跡発掘調査報告書 5, 滋賀県教育委員会事務局文化財保護課・滋賀県文化財保護協会
6. 兼康保明・堀内宏司編 1978『森浜遺跡発掘調査報告書〈本文編〉』滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会
7. 葛原秀雄 2007『弘川常磐遺跡：図版編』高島市文化財調査報告書 8, 高島市教育委員会
8. 兼康保明編 1981『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告Ⅷ－ 3』滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会
9. 横田洋三編 2000『法光寺遺跡』ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書 27(1), 滋賀県教育委員会事務局文化財保護課・滋賀県文化財保護協会
10. 田中勝弘編 1989『伊香郡余呉町桜内遺跡』北陸自動車道関連遺跡発掘調査報告書 11, 滋賀県教育委員会文化部文化財保護課・滋賀県文化財保護協会
11. 森口訓男編 1988『十里町遺跡・鴨田遺跡調査』長浜市教育委員会
12. 浜崎悟司・稲垣正宏 1988『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書ＸＶ－ 1』滋賀県教育委員会文化部文化財保護課・滋賀県文化財保護協会
13. 宮成良佐編 1988『越前塚遺跡発掘調査報告書』長浜市埋蔵文化財調査資料 5, 長浜市教育委員会
14. 森口訓男編 1990『越前塚遺跡Ⅲ・口分田北遺跡Ⅰ・Ⅱ・宮司遺跡Ⅳ・新庄馬場遺跡Ⅰ・大辰巳遺跡Ⅲ』長浜市埋蔵文化財調査資料 6, 長浜市教育委員会
15. 丸山雄二編 1995『大塚遺跡』長浜市埋蔵文化財調査資料 12
16. 丸山雄二編 1996『大塚遺跡Ⅱ』長浜市埋蔵文化財調査資料 14

17. 仲川　靖編　1989『柿田遺跡発掘調査報告書』滋賀県教育委員会文化部文化財保護課・滋賀県文化財保護協会
18. 坂本正裕編　1996『墓立遺跡Ⅱ』長浜市埋蔵文化財調査資料 15, 長浜市教育委員会
19. 稲葉隆宜編　1996『北郷里小遺跡・上寺地遺跡』ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書 23(1), 滋賀県教育委員会事務局文化財保護課・滋賀県文化財保護協会
20. 松室孝樹編　1993『堀部西・丸岡塚遺跡、春近遺跡』ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書 20(9), 滋賀県教育委員会事務局文化財保護課・滋賀県文化財保護協会
21. 伊藤　潔編　1999『大辰巳遺跡発掘調査報告書　第 7 次調査』滋賀県長浜市埋蔵文化財調査資料 31
22. 宮崎幹也編　1990『法勝寺遺跡』ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書ⅩⅦ－ 1
23. 宮崎幹也編　1994『黒田遺跡 3』近江町文化財調査報告書 17

【第 5 章　甕形土器の採用比率に関する分析で使用した文献】

伊藤裕偉・大川操・豊田祥三・山岡奈美恵・鈴木一有　2005『天花寺丘陵内遺跡郡発掘調査報告Ⅳ』三重県埋蔵文化財調査報告 259
大桐真白　2002『八幡市埋蔵文化財発掘調査概報』32
奥谷博之　2005『北府 A 遺跡』武生市埋蔵文化財調査報告 24
奥村清一郎・竹原一彦・森島康雄・伊賀高弘・高野陽子　2003『佐山遺跡』京都府遺跡調査概報 70
小野木学・藤田英博・河瀬実浩・宗宮隆司・吉田靖・山本厚美　2015『荒尾南遺跡 B 地区Ⅱ』岐阜県文化財保護センター調査報告書 131
木野本和之・石井智大・西口剛司・松葉和也　2009『村竹コノ遺跡』三重県埋蔵文化財調査報告 123(9)
京都府埋蔵文化財調査研究センター　2013『京都府遺跡調査報告集』154
京都府埋蔵文化財調査研究センター　2014『京都府遺跡調査報告集』160
小森俊寛・大桐真白・備前知世　2013『美濃山廃寺（第 8 次）・美濃山廃寺下層遺跡（第 11 次）発掘調査報告書』八幡市埋蔵文化財発掘調査報告 58
杉浦隆支・植田文雄・奥田尚・植田弥生・能城修一・新山雅広　2005『石田遺跡』能登川町埋蔵文化財調査報告書 58
滋賀県教育委員会文化部文化財保護課・滋賀県文化財保護協会　1992『針江北遺跡・針江川北遺跡（Ⅰ）』
清水政宏　2004『山奥遺跡Ⅱ』四日市市埋蔵文化財発掘調査報告書 32
田中祐二・青木隆佳・井之口茂・今村峯雄・川本耕三・小林謙一・坂本稔・白川綾・杉山拓己・鈴木茂・西田京平・平尾良光・藤根久・堀口悟史・松崎浩之・光谷拓実・山口将史　2011『府中石田遺跡』福井県埋蔵文化財調査報告 121
成瀬正勝・鈴木隆雄・藤根久・新山雅広・植田弥生・今村美智子・杉原麻記　2000『砂行遺跡』岐阜県文化財保護センター調査報告書 65
西邦和　2000『佐生北遺跡（2 次）・石田遺跡（6 次）』能登川町埋蔵文化財調査報告書 49
西邦和・杉浦隆支　2003『石田遺跡（13-2 次）　石田遺跡（17 次）　殿衛遺跡（1 次）　長福寺（3 次）』能登川町埋蔵文化財調査報告書 54
原田恵理子　2005『天花寺丘陵内遺跡郡発掘調査報告Ⅲ -1』三重県埋蔵文化財調査報告 180(2)
伴野幸一　1991『伊勢遺跡発掘調査報告書　塚之越遺跡発掘調査報告書』守山市文化財調査報告書 42
伴野幸一　2003『伊勢遺跡 75 次発掘調査報告書』
樋上昇　2002『八王子遺跡』愛知県埋蔵文化財調査センター報告書 92
平井美典・中村智孝・中川正人・新山雅広・藤根久・竹原弘展・川本耕三・山田卓司・鹿又喜隆・酒井公美子・池田利晴『柳遺跡Ⅳ』
藤崎高志・汐見眞・白崎泰子・吉川昌伸　2010『関津遺跡Ⅲ』
丸山雄二　1995『大塚遺跡』長浜市埋蔵文化財調査資料 12
丸山雄二　1996『大塚遺跡Ⅱ』長浜市埋蔵文化財調査資料 14
守山市教育委員会　1983『守山市文化財調査報告書』12
吉田隆史　2011『岸岡山Ⅲ遺跡（第 2 次）』

【第 6 章　第 2 節　受口甕の属性分析に使用した文献】

滋賀県教育委員会文化部文化財保護課・滋賀県文化財保護協会　1992『針江北遺跡・針江川北遺跡（Ⅰ）』

西邦和・植田文雄編　2001『石田遺跡（4 次）・中沢遺跡（13 次）・斗西遺跡（17 次）』能登川町埋蔵文化財調査報告書第 50 集，能登川町教育委員会・能登川町埋蔵文化財センター

平井美典・中村智孝・中川正人・新山雅広・藤根久・竹原弘展・川本耕三・山田卓司・鹿又喜隆・酒井公美子・池田利晴『柳遺跡Ⅳ』

丸山雄二編　1995『大塚遺跡』長浜市埋蔵文化財調査資料 12

守山市教育委員会　1983『守山市文化財調査報告書』12

【第 6 章　第 5 節　関東地方の受口甕に関する分析に使用した文献】

1. 玉井輝男・赤井博之・酒井弘志編　1993『下栗野方台遺跡　工業用地建設に伴う緊急発掘調査報告書』千代川村教育委員会・下栗野方台遺跡発掘調査会
2. 日本文化財研究所編　1978『木滝台遺跡　桜山古墳　埋蔵文化財発掘調査報告書』鹿島町の文化財第 6 集，鹿島町木滝台遺跡発掘調査会
3. 安岡路洋　1958「岩槻市加倉遺蹟報告書」『埼玉研究』2, 44-50
4. 西口正純編　1986『鍛冶屋・新田口遺跡　東北新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告Ⅵ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 62 集，埼玉県埋蔵文化財調査事業団
5. 白井久美子　1981「市原市上総国分寺台出土の東海系「有段口縁」甕形土器について」『古代』71, 48-64
6. 光江　章「南谷遺跡」『上総線鉄塔建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書』君津郡市文化財センター発掘調査報告書第 19 集，東京電力・君津郡市文化財センター，5-39
7. 松戸市教育委員会 1974『諏訪原遺跡』松戸市文化財調査報告5
8. 千葉県文化財保護協会 1971『東関東自動車道（千葉―成田線）関係埋蔵文化財発掘調査報告書 1970』
9. 枝川旬・工藤正二編　1991『戸張一番割遺跡』柏市教育委員会
10. 井上荘之助編　1983『千葉県東葛飾郡沼南町経塚遺跡発掘調査報告書』山武考古学研究所
11. 大村直・鶴岡英一編　2009『市原市南中台遺跡・荒久遺跡 A 地点　上総国分寺台遺跡調査報告ＸＸ』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書 10, 市原市教育委員会・市原市埋蔵文化財調査センター
12. 野中徹・杉山春信・杉山奈津子・高梨俊夫編　2000『千葉県鴨川市東条地区遺跡群発掘調査報告書－ほ場整備事業（大区画）東条地区に伴う埋蔵文化財調査－』鴨川市遺跡調査会埋蔵文化財調査報告 6, 千葉県館山土地改良事務所・東条土地改良区・鴨川市教育委員会・鴨川市遺跡調査会
13. 清藤一順・及川淳一編　1984『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書Ⅷ』千葉県企業庁・千葉県文化財センター
14. 白石竹雄編　1973『平台先遺跡―千葉県印旛郡印西町所在の古墳時代前期集落址の研究―』平台先遺跡発掘調査団
15. 砧中学校遺跡調査会編　1987『砧中学校遺跡』世田谷区教育委員会埋蔵文化財係
16. 鹿島保弘編　1988『寺谷戸遺跡発掘調査報告－新田中学校第二方面校建設に伴う埋蔵文化財調査報告書－』横浜市埋蔵文化財調査委員会・横浜市教育委員会事務局社会教育部文化財課内
17. 田村良照編　1990『横浜市港北区　諏訪下北遺跡発掘調査報告書』諏訪下北遺跡発掘調査団・株式会社佐田住宅センター
18. 大川清・渡辺務　1994『No1 遺跡・No2 遺跡・No6 遺跡・No10 遺跡　赤田地区遺跡群　集落編Ⅰ』日本窯業史研究所報告第 45 冊，日本窯業史研究所
19. 合田芳正・大坪宣雄・碓井三子・及川良彦・池田治編　1994『川崎市宮前区　野川東耕地遺跡発掘調査報告書』野川東耕地遺跡調査団
20. 継実・桜井準也編　1998『神奈川県藤沢市若尾山（藤沢市 No.36）遺跡－藤沢市立大道小学校内地点－発掘調査報告書』東国歴史考古学研究所調査研究報告 16, 東国歴史考古学研究所
21. 戸田哲也・秋山重美・小山裕之・中山豊　1996『稲荷台地遺跡群発掘調査報告書（C・D 地点　F 地点　S 地点）』稲荷台地遺跡群発掘調査団
22. 子ノ神遺跡発掘調査団編　1983『子ノ神（Ⅱ）』厚木市教育委員会

論文の内容の要旨

論文題目　弥生・古墳時代移行期における近江系土器の移動とその背景
氏　　名　山下　優介

弥生時代から古墳時代への移行期は、土器の移動の活発化、あるいは前方後円墳や前方後方墳の墳墓形態の共通性などとして知られるように、地域間交流の範囲と規模が著しく拡大することが注目されてきた。移行期を経て幕を開ける古墳時代の指標には、定型化した前方後円墳や土師器の出現として理解される、斉一化現象があげられている。そのため、直前段階の移行期に斉一化の基盤となる交流関係の活発化・広域化がどのように進展したかという問題は、弥生・古墳時代を研究する者にとって大きな関心事の一つといえる。各地域に共通する遺物や遺構は、地域同士の交流関係を示す証拠として積極的に議論の的とされたが、それらのなかでも、本来の製作地から離れて出土する外来系土器は土器の移動に介在する人びとの交流を知るための重要な手がかりであった。

近江地域に関連した考古事象は、分布の広がりや拡散の背景が常に関心の的とされてきた。近江系土器や突線鈕式銅鐸、弥生時代後期の独立棟持柱建物、出現期の前方後方墳などの近江地域に分布の中心をもつ複数の考古事象を根拠として、多くの研究者はこれらの強い独自性や他地域への影響力を想定してきた。なかでも近江系土器は、東は関東地方から西は朝鮮半島南部に及ぶ分布の広域性が注目されるとともに、近江系土器に裏付けられる近江地域と他地域の交流関係が、古墳時代に先駆けて弥生時代後期の地域間交流を担った可能性が論じられる機会も増えてきた。

このような状況をふまえて筆者は、各地へ広がる近江系土器を研究対象とすることで、弥生・古墳時代移行期に地域間交流が広域化した過程を解明できると考えた。それには、具体的な資料と分析にもとづいてそれらの遺物や遺構の時間的、空間的様相を明らかにする必要があるが、近江系土器を対象とした基礎的な検討が不十分なため、拡散現象の背景に対する解釈がほとんどおこなわれていないのが現状である。

したがって本研究では、弥生・古墳時代移行期に地域間交流が広域化した背景を明らかにするため、拡散現象が注目されてきた近江系土器に着目した。目的を達成するため、第一に、近江系土器の基礎的検討を実施した。第二に、各分析によって具体化した近江系土器の拡散現象に対して、その背景を考察した。そして第三に、近江系土器の検討を通じて明らかにした弥生・古墳時代移行期における近江地域の変化を説明するとともに、その変化が従来の研究成果に対してどのような意義をもつか議論を深めた。

本研究は 8 章で構成した。第 1 章で研究の目的と方法を説明し、第 2 章では分析の前提となる時間軸を設定した。第 3 章で近江系土器に関する先行研究を整理した後、第 4 ～ 6 章にかけて近江系土器の分析を実施し、第 7 章において近江系土器の移動の背景を考察した。第

8 章では研究の総括をおこない結論を示した。以下、各章ごとに概略を示す。

第 1 章では、弥生・古墳時代移行期の研究に影響を与えた学説に対する問題提起をおこない、近江系土器および近江地域に関する検討に取り組む本研究の意義や目的を明確にした。東海系要素の拡散とみられてきた東日本各地への東海系土器や前方後方墳を、近江系要素の拡散という視点から見直すことの必要性を論じたほか、奈良県桜井市纒向遺跡やヤマト王権成立以前の近畿地方に、近江地域を核とした「原倭国」段階を想定する新説に対して、前提となる受口甕や青銅器生産に関する分析が不十分であることを指摘した。いずれも、近江地域の資料に対する基礎的な分析が不十分なことが原因であり、特に、近江北部地域に対する検討の不足は、近江地域を交えた弥生・古墳時代移行期の変化に関する議論の進展を一層困難にしている点を論じた。以上の問題意識をふまえて本研究の目的と方法、および本研究の構成を示した。

第 2 章では、本研究で実施する分析の前提となる時間軸の検討をおこなった。器台の型式学的な変化を土台として弥生時代後期から古墳時代前期を 9 時期に区分し、ほかの器種を含めた各時期の器種構成を明らかにした。また、弥生時代後期から古墳時代前期の暦年代に関する議論をふりかえり、おもに年輪年代測定と炭素 14 年代測定による複数の成果を比較することで暦年代観を示した。

第 3 ～ 6 章は近江系土器を対象とした検討を実施した。第 3 章では、近江系土器に関する先行研究を整理した。「近江系土器」は、弥生時代後期の近江地域でみられる、受口状の口縁部を有する甕形土器に系譜をもつ、他地域出土の受口甕を指すことが現在では多い。しかし、本来は弥生時代中期の甕を指す語であった。また、「近江系土器」というと甕以外の器種を含む場合もある。そのような用語の曖昧さを解消するため、「近江系土器」という用語の出現から現在までの研究動向を辿り、本研究で検討すべき課題を明示した。

第 4 章では、近江系土器に関する基礎的な理解の第一として、弥生時代後期前半（筆者の編年のⅠ期）の代表的な事例を中心に近江系土器に関する分析を実施した。愛知県八王子遺跡、三重県六大 B 遺跡、大阪府古曽部・芝谷遺跡の近江系土器について、各土器群の器種構成や受口甕の特徴を滋賀県守山市服部遺跡と比較検討しその特色を論じるとともに、後期前半の受口甕の多くが近江湖南地域からの搬入品の可能性が高いことを明らかにした。

第 5 章では、近江系土器の拡散や滋賀県守山市伊勢遺跡、野洲市大岩山銅鐸などで近江地域が最も注目される時期である、弥生時代後期後半（筆者の編年のⅡ・Ⅲ期）に関して、甕の採用率に着目した分析を基礎として、受口甕の広がりの意味を考察した。受口甕の高い採用率を示す琵琶湖沿岸の各遺跡同士は、集落面積や独立棟持柱建物の採用状況を検討した結果、強い関係性をもっていたことを推定した。その一方、近江地域周辺の遺跡で受口甕が 3 割から 4 割程度採用される事実を明らかにしたことで、それが受口甕の拡散のどのような側面を表すのか、第 6 章で解決すべき課題とした。

第 6 章では、弥生時代後期後半における近江系土器の認定基準の設定を目的とした。そして、章の後半では設定した指標を用いて関東地方の近江系土器を再検討した。前章までの検討をふまえ、各地に広がる受口甕を評価する指標が必要と考えた筆者は、まず、近江地域の受口

甕を対象とした属性分析にもとづいて各小地域の受口甕の特徴を類型化した。次に、他地域で検出された受口甕の類型と、それにともなう近江地域特有の器種の存否を検討した。この検討と筆者の観察所見、先行研究の成果をふまえることで、弥生時代後期後半の近江周辺地域で検出される受口甕は、在地で生産された可能性が高いことを明らかにした。ここまでの受口甕の属性分析や他地域の資料の検討にもとづき、6パターンに近江系土器を分類した。最後に、筆者が設定した受口甕の類型によって関東地方の受口甕を分析し、近江地域の受口甕の特徴を明瞭にもつ例が関東地方に存在することを、客観的なデータの提示によって再確認した。古墳時代初頭（筆者の編年のⅤ・Ⅵ期）に確認できるそれらは搬入品の可能性が高く、すなわち近江地域からの搬入品ととらえられる蓋然性が高いことを示した。受容先では受口甕とともに近江系器種が認められることも明らかにした。

続く第7章では、第4～6章を通じて実証的に示した弥生・古墳時代移行期の近江系土器の移動や拡散が、人びとのどのような活動の結果として生じたものであるか考察した。第一に、先行研究で提示された土器の移動の類型案を用いて、本研究が対象とした近江系土器を検討した。この検討によって、筆者の分析が示した近江系土器の移動には既存の類型案では十分に解釈できない場合があることを説明したうえで、第二に、弥生時代後期前半の近江地域から周辺地域への受口甕の移動と、古墳時代初頭の関東地方で確認される近江系手焙形土器について新たな解釈の可能性を提示した。筆者の、弥生時代後期前半における受口甕の移動を移動先での生活を目的とした移動とする解釈や、近江系手焙形土器が検出された前方後方墳を根拠に近江地域の集団の移動を認める解釈は、未検討の課題を多く含むものであり妥当性を証明したとはいえない。そのような課題が残るものの、第4～6章の分析結果と第7章の解釈をふまえて、弥生時代後期前半（Ⅰ期）と古墳時代初頭（Ⅴ・Ⅵ期）に近江地域からの他地域への移住者が存在した可能性を示した。

第4章から第7章までの成果をまとめると、近江系土器に関して以下の三つの移動や拡散を明らかにしたといえる。第一が弥生時代後期前半の近江周辺地域への拡散であり、この背景には甕を携えて移動した近江地域の人びとの存在を推定した。第二が弥生時代後期後半の拡散である。この背景は、後期後半に近江地域を中心とした交流関係が強まったために各地で受口甕が採用されたということではなく、後期前半の拡散を契機とした他地域における受口甕の定着の結果である可能性を示した。そして、第三に、古墳時代初頭の関東地方への拡散を明らかにした。この背景は、近江地域からの人びとの移住である可能性が高いと考察した。

第8章では、本研究が明らかにした近江系土器の移動現象と、その背後にみえてきた近江地域からの人びとの移住活動が、弥生・古墳時代移行期のどのような変化と関わるか、議論を深めた。近江系土器の発信地である近江地域の集落動態を検討することで、他地域への移動が認められるⅠ期やⅣ・Ⅴ期に連動した変化が認められることを示した。また、第1章でとりあげた弥生・古墳時代移行期の変化を論じる既往の学説に対して、本研究の成果をもとに検証をおこなった。最後に、以上をふまえて本研究を総括した。